

## 大学入試センター試験におけるハザード・災害関連問題の特徴

山梨大学大学院医工農総合教育部修士課程工学専攻 学生会員 ○黒岡 あゆ子  
 山梨大学地域防災・マネジメント研究センター 正会員 秦 康範  
 静岡大学防災総合センター 正会員 牛山 素行

### 1. はじめに

初等・中等教育において防災を教科化すべきといった論調をしばしば見かける。しかし、学校教育現場では必ずしも防災の教科化が望まれていないことが明らかとなっている。全国都道府県教育長議会が行った調査<sup>1)</sup>では、68%が防災の教科化の必要はないと回答している。その理由としては「既存の教科等で対応が可能」、「教科化した場合の評価が困難」などが挙げられている。実際に「防災」の教科化は行われていないものの、現実には既に学習指導要領には相当規模の防災教育関連記述があり、今後更に拡大の方向にある。加えて、文部科学省は、防災に関して、系統的な指導や時間の確保の必要性を訴えている。

しかし、「防災教育」に関する現実は必ずしも十分認識されておらず、防災に関する専門的な議論の場においても、「教科化されていない＝学校で防災を教えていない」といった素朴な誤解に基づく学校での防災教育の必要性を「提案」する発言が見られることもある。そのため、既に行われている「学校の科目の中で取り扱われている防災教育」について情報を整理し、現状を把握した上での議論が行われることが重要であると考える。

### 2. 研究目的

本研究では、大学入試センター試験(以下では、センター試験)におけるハザード・災害関連問題の出題内容を整理分類し、その経年的な傾向をみることで今後の防災教育のあり方を考える上での基礎的知見を得ることを目的とする。

### 3. 研究方法

#### (1)使用データ

本研究では1990年から2020年の31年分のセンター試験を取り上げる。対象教科は平成23年から26年版防災白書の付属資料にある「学習指導要領における主な防災教育関連記述」<sup>2)</sup>から、記述量の多い「地理」

と「地学」とした。対象科目は、地理については「地理」、「地理A」、「地理B」、地学については、「地学IA」、「地学IB」、「地学I」、「地学基礎」、「地学」の計8科目を対象とした。

#### (2)分析方法

本研究では以下の2点について分析を行う。

- ①センター試験内のハザード・災害関連問題を抽出・整理し、分析する。
- ②センター試験内のハザード・災害関連問題を災害種別に整理し、分析する。

今回センター試験を分析するにあたって、問題を「ハザード関連問題」、「災害関連問題」、「両方に属する問題」の3つに分類した。「ハザード関連問題」は災害をもたらす自然現象に関する問題、「災害関連問題」はハザードによって生じる被害やハザードと社会との関わりに関する問題、「両方に属する問題」は上記の二つ両方の性質を持つ問題を分類した。

### 4. 分析結果

分析は科目や本試・追試の区別はせずに全体の割合として算出した。

#### (1)点数による分析

地学は1997年から2006年で選択問題性がとられており、そのうち大問一つが自然災害に関する出題であった。今回の分析では、その問題を選択したとして割合を出しているため、1997年から2006年間で割合が高くなっている。地学では学習指導要領の変化とともにハザード・災害関連問題の出題が1割程度増加していた。また、両方に属する問題は、2009年に改訂された学習指導要領が適用された2015年から毎年出題されている。地学は「地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する」という性格があるため、ハザード関連問題が他と比較して常に割合が高い。

地理は全体的に若干ではあるが増加傾向にある。特

キーワード：防災教育 学校 教育 大学入試センター試験 ハザード 災害

連絡先：山梨県甲府市武田 4-3-11 山梨大学工学部土木環境工学科 防災研究室 TEL:055-220-8533

に災害関連問題について増加傾向が見られる。

## (2)災害種別による分析

地学は科目の性格からハザード関連問題が比較的多く出題されている。そのため、複数の災害の複合問題よりも、地震や火山噴火単体について問う問題が多く見られた。

地理は、国を指定してそこで生じる災害について問う問題が多く見られたため、地学と比較して複合問題の数が多傾向にあった。

両教科ともに、大きな災害の後にその災害についての出題が増加するといった傾向はみられなかった。

## 5. まとめ

本研究では、センター試験におけるハザード・災害問題の出題内容を整理分類し、経年的な傾向の整理を行った。明らかになったことを以下に示す。

- 地学は「ハザード関連問題」、「災害関連問題」で1割程度の増加傾向が見られた。「両方に属する問題」は2015年の学習指導要領改訂後毎年2~5%程度出題されるようになった。災害種別の出題については、複合問題よりもそれぞれの災害単体について問う問題数が多い。
- 地理は、若干ではあるが全体的に増加傾向が見られた。災害種別では地学と異なり複合問題の出題数が単体問題と比較して多い。

今回の調査では点数と問題数に着目して分析を行った。防災教育に直結するハザード・災害関連問題は、地学・地理の双方で一定程度長年にわたって出題されていることが示された。しばしば指摘される「教科化されていない=防災を学校で教えていない」という認識は適切とは言えないことが今回の調査で明らかとなった。今後は問題内容の観点から分析を行うことで経年的な内容の変化をより分析する予定である。

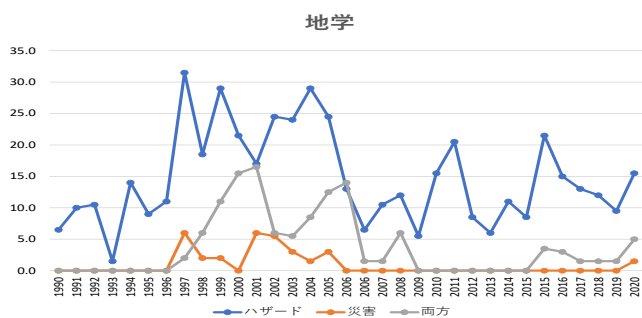


図1 地学のハザード・災害関連問題の点数の推移

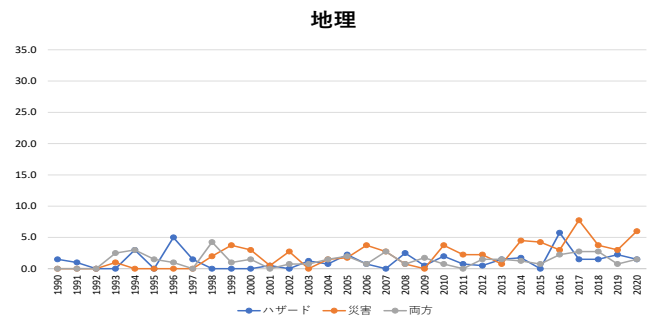


図2 地理のハザード・災害関連問題の点数の推移

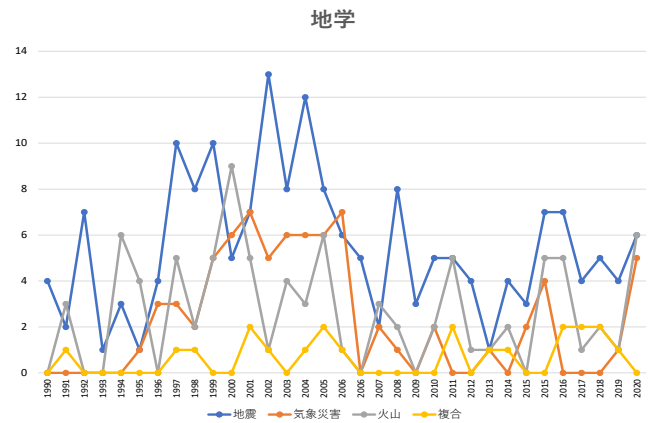


図3 地学の災害種別の問題数の推移

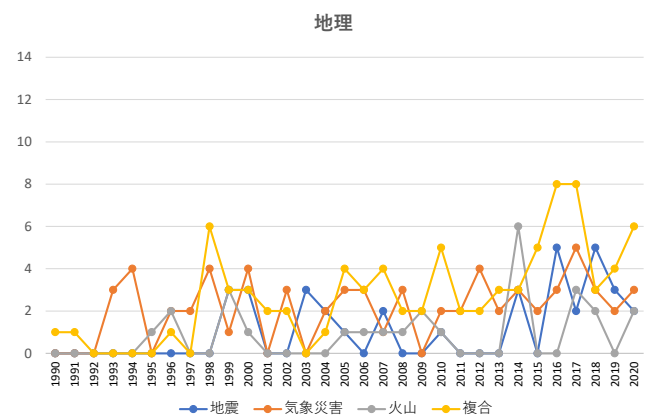


図4 地理の災害種別の問題数の推移

## 参考文献

- 1) 全国都道府県教育委員会連合会：防災教育の推進について(平成24年度研究報告 No.1)全国都道府県教育長協議会第1部会, 2013
- 2) 内閣府：学習指導要領における主な防災教育関連記述, 2011~2014